

世田谷 市民大学

2026年度後期募集案内



申込締切日 7月15日(水)

※追加募集を7月31日(金)まで行う場合があります。

「世田谷市民大学」は、18歳以上の区民が誰でも参加できる区民のための学習の場です。

政治・社会・経済・人間に関連した幅広いテーマを取り上げ、地域社会に密着した問題や、市民自治の担い手に必要な現代社会の諸問題に対する確かなものの見方を培うよう、講師陣が丁寧に系統的な講義・ゼミを行います。

世田谷市民大学 案内図



交通ご案内

電車

東急田園都市線「池尻大橋駅」
南口より徒歩約8分

バス

①番の「池尻」バス停より徒歩約7分

②番の「三宿」バス停より徒歩約7分

(渋谷駅～上町駅・用賀駅・祖師ヶ谷大蔵駅・
成城学園前駅西口・弦巻営業所・田園調布駅・
等々力駅 他)

③番の「三宿」バス停より徒歩約7分

(渋谷駅～野沢龍雲寺(循環)、
渋谷駅～東京医療センター 他)

※世田谷市民大学受講生用の駐車場はありません。
(1階にコインパーキングがあります)

※「せたがや がやがや館」は、世田谷区立健康増進・
交流施設です。市民大学は、施設内の会議室を一部
借用して開講しています。

世田谷区 市民大学・生涯大学事務局

〒154-0001

世田谷区池尻2-3-11 せたがや がやがや館4階

TEL 03-3412-3071 FAX 03-3412-3075

(8:30～17:00 土・日曜日、祝日休)

世田谷区 生活文化政策部 市民活動推進課

〒156-0043

世田谷区松原6-3-5 梅丘分庁舎

TEL 03-6304-3176 FAX 03-6304-3597

(8:30～17:00 土・日曜日、祝日休)

目次

学習の方式	1
後期プログラム	2・3
昼間講座の概要	4・5
土曜講座の概要	6

運営委員会／評議会、今後の予定講座	7
申込みのご案内	8
後期申込書	(裏表紙)

学習の方式

世田谷市民大学は、月曜日に「政治」・「社会」、金曜日に「経済」・「人間」のコースがあり、それぞれ「ゼミ」と「昼間講座（前期・後期）」で構成されています。

その他、土曜講座（前期・後期）、世田谷市民サマーフォーラム、公開講座などもあります。これらの中から希望の講座を選択し、学習することができます。

この募集案内では、以下の後期講座について申込みを受け付けます。

講座の詳細は P2～6 を、申込み方法等は P8 をご覧ください。

募集講座（後期）

講座名	コース	定員	回数	内容・受講上の注意
昼間講座	政治 社会 経済 人間	各80名	12回	講師がテーマに沿って講義形式で行います。 ※講座は希望するコース・時間割の選択制です。 (複数受講可) ※同日、同時間帯のゼミとの重複受講は不可。 詳細：P2、3、4、5
土曜講座		各80名	6回	土曜日に講義形式で行います。 (複数受講可) 詳細：P3、6
※ゼミは前期・後期の通年クラスのため、今回の募集はありません。				
ゼミ	全コース	各20名	12回	講師の指導のもと、発表・討論を行うなど、自主的に学習を進めます。

その他の講座紹介（別途募集を行います）

講座名	内容
世田谷市民サマーフォーラム	7月～8月に行う短期集中型講座で、統一テーマのもと複数回行います。 ※今年度の募集は終了しています。
公開講座	1月～2月にかけて行う無料の特別講座です。 ※次回は12月頃募集の予定です。

2026年度 世田谷市民大学 後期プログラム

※掲載をしている講師の肩書は2026年4月1日現在のものです。

曜日	日程	区分	時間割	講座タイトル	講師
月曜日	9月 7・14・28日 10月 5・19・26日 11月 2・9・16・30日 12月 7・14日 (全12回)	昼間講座	政治1時限	国際政治と国際経済の関連を考える－国際政治の視点から	古城 佳子 (東京大学名誉教授)
			政治2時限	スペイン・ポルトガルの政治－「特殊な国」の200年	武藤 祥 (関西学院大学教授)
			社会3時限	大都市の移動と不平等を考える	山口 恵子 (東京学芸大学教授)
			社会4時限	ローカル／コミュニティとメディアの文化論	浅岡 隆裕 (立正大学教授)

曜日	日程	区分	時間割	講座タイトル	講師
金曜日	9月 11・18・25日 10月 2・9・16・23・30日 11月 6・13・20・27日 (全12回)	昼間講座	経済1時限	全体主義ツーリズムの時代－NSレジームとKdF－	森 宜人 (一橋大学教授)
			経済2時限	エネルギーから見る近現代日本の歴史:石炭を中心に	島西 智輝 (立教大学教授)
			人間3時限	戦後日本の文化運動・農村・ジェンダー:周縁からの思想的考察	コマストリ キアラ (早稲田大学講師)
			人間4時限	ジェンダーと政治 戦後史から考える男と女	広岡 守穂 (中央大学名誉教授)

曜日	日程	区分	時間割	講座タイトル	講師
土曜日	10月 3・10・17・24・31日	土曜講座	土曜講座 2時限	国道246号線スタディーズ ～ミリタリー・エリアから首都圏 を考える	塚田 修一 (相模女子大学准教授)
	11月 7日 (全6回)		土曜講座 4時限	福祉と正義と経済(学)と	後藤 玲子 (帝京大学教授)

【講義時間】

昼間講座 土曜講座	1時限	9時20分～10時40分
	2時限	11時00分～12時20分
	3時限	13時10分～14時30分
	4時限	14時50分～16時10分

都合により講義日に変更が生じた場合は、基本的に最終回の翌週以降の同曜日、同時間に補講を行います。

政治コース

1 時限 国際政治と国際経済の関連を考える
－国際政治の視点から（古城 佳子）

現在、これまでの国際秩序が危機に瀕していると言われていいます。政治面では、米中対立、ウクライナ戦争、イラン戦争など国家間対立が増え、国際社会の分断が深まっています。経済面では、国境を越えた相互依存が進み「グローバル化」と呼ばれるような状況にあります。近年の分断化は国境を越える貿易、人の移動などの交流にも影響を与え、様々な問題を引き起こしています。

国際関係において政治と経済は密接に関わってきましたが、時代によってその関係は変化し新たな問題が生じてきました。本講座は、この複雑な関係をどのように捉えればよいのか検討し、国際政治秩序の安定にとっての課題を政治学の視点から考えてみたいと思います。

- 第1回 国際関係における政治と経済の見方
- 第2回 第二次世界大戦後の構想
- 第3回 ブレトン・ウッズ体制の変容
- 第4回 冷戦後の国際政治経済体制
- 第5回 国際貿易体制：WTO 体制の変容
- 第6回 国際通貨体制：金融危機と安定
- 第7回 グローバル化と反グローバル化
- 第8回 グローバル化とガバナンス
- 第9回 格差の問題
- 第10回 経済的相互依存と紛争
- 第11回 経済的安全保障の時代
- 第12回 国際政治経済秩序の課題

2 時限 スペイン・ポルトガルの政治
－「特殊な国」の200年（武藤 祥）

スペイン・ポルトガルは、日本人にとって人気の国で、その文化や料理などは広く知られています。しかし、両国の政治や歴史についてはどれほど知られているのでしょうか。

ヨーロッパの政治（史）と言えば、英仏独などの主要国が主たる対象で、スペイン・ポルトガルは「特殊な国」とされ、正面から扱われてきませんでした。

この講義では、19世紀から現代までの両国の政治史を概観します。政治的混乱や内戦、独裁といったネガティブな現象に満ちた時代から、ヨーロッパの「普通の国」になる現代までの歩みを振り返り、「特殊」とされた国の政治の特質を探っていきましょう。

- 第1回 イベリア半島を見る視点－歴史的・地理的文脈
- 第2回 前史－19世紀前半まで
- 第3回 19世紀後半の政治－立憲政治の確立
- 第4回 20世紀初頭－大衆政治の到来
- 第5回 第一次世界大戦後の危機
- 第6回 第二共和制とスペイン内戦
- 第7回 長期独裁の成立－フランコ体制と新国家体制
- 第8回 独裁体制の変容
- 第9回 体制転換と民主政治の定着
- 第10回 ヨーロッパ統合とその影響
- 第11回 21世紀の政治－金融危機と政治変動
- 第12回 おわりに－イベリア半島のこれから

社会コース

3 時限 大都市の移動と不平等を考える
（山口 恵子）

大都市はその形成期からさまざまな不平等を含みこみ、その実態把握や対応の模索が試みられてきました。近代都市の形成期にはアメリカのシカゴやイギリスのロンドンなどをフィールドとしつつ、都市研究が盛んになりました。その際、経済システムや政治行政システムで構成されるような都市システムに対して、それに影響を受けつつも人々が日常生活を形作り多様な社会的世界が展開されていることに、都市社会学は注目してきました。

この講義では、その近代都市の形成期から現代の東京までを視野に入れ、貧困を中心とした不平等形成の構造とそれに対応していく人々の社会的世界の展開について、都市社会学の観点から考えます。その際、人口移動という点でも、階層移動および社会の流動化という点でも、移動は大都市を考える上での重要な現象であり、注目していきます。

東京は長らく日本でも突出したプライメイト・シティであり、戦後はさまざまな課題と可能性を抱えながら成熟してきました。その東京を念頭におきつつ、具体的には、日本国内の出稼ぎ現象、若者の地域移住、「寄せ場」の変化、ホームレス化、ジェンダー的不平等、移民、途上国都市の貧困など、さまざまなトピックを事例として取り上げながら進めます。大都市の不平等の現状と背景について、社会学の観点からみなさんと一緒に考えたいと思います。

4 時限 ローカル／コミュニティとメディア
の文化論（浅岡 隆裕）

地域（ローカル／コミュニティ）には、さまざまなメディア（情報媒体）が存在している。これらは地域に関する情報を発信し、当事者間のコミュニケーションを促進する媒体として機能している。それぞれのローカルティ（地域特性）に根差したメディアが複数存在することで、地域の「メディア・エコロジー」（生態系）が形成されている。地域のメディアはさまざまにタイプ分けが可能であり、印刷（紙）、放送、電子媒体（インターネット）など代表的な類型ごとにその成り立ちや特性について触れていく。そして近年では「地域情報化」「デジタル化」と呼ばれる社会変動の深化によって、地域に流通し、当該地域の住民が受信する情報の量と質が大きく変容している。それによる受け手のコミュニケーションや文化への影響について考察を進めていきたい。

- 第1回 イントロダクション、学ぶ意義、扱う範囲
- 第2回 ローカル／コミュニティのメディアの定義と機能
- 第3回 ローカル／コミュニティのメディアとしての新聞
- 第4回 ローカル／コミュニティのメディアとしての放送
- 第5回 ローカル／コミュニティのメディアとしてのラジオ
- 第6回 ローカル／コミュニティのメディアとしてのWEB
- 第7回 政策としての地域情報化
- 第8回 地域でのコミュニケーションと文化変容
- 第9回 メディア活動という“社会運動”
- 第10回 地域住民の情報ニーズと行動
- 第11回 地域の魅力を発信するシティプロモーション
- 第12回 まとめ－コミュニケーションと文化のデザインへ

経済コース

1 時限 全体主義ツーリズムの時代
－ NS レジームと KdF － (森 宜人)

本講義では、ドイツの NS レジーム (ナチ体制) の国民的余暇組織「歓喜力行団 Kraft durch Freude (KdF)」が国内外に展開させたツーリズムの軌跡をたどります。KdF が誕生した両大戦間期は、非労働時間としての余暇のあり方が初めて社会政策上の課題として認識された時代であり、「健全な」余暇の組織化が各国で模索されました。なかでも KdF は、海外へのクルーズ・ツアーや、各種国内ツアーを広く国民一般に提供し、全体主義的な余暇の組織化を試みたことで国際的な注目を集めました。講義では、KdF の全体主義ツーリズムをドイツ社会経済史の文脈に位置づけるとともに、NS レジームの対外戦略に果たした KdF の役割を、トランスナショナル・ヒストリーの視角から検証します。

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 KdF の成立 (1)
- 第 3 回 KdF の成立 (2)
- 第 4 回 KdF 国内ツアーの展開 (1)
- 第 5 回 KdF 国内ツアーの展開 (2)
- 第 6 回 KdF クルーズの航跡 (1)
- 第 7 回 KdF クルーズの航跡 (2)
- 第 8 回 「KdF 都市」ハンブルク (1)
- 第 9 回 「KdF 都市」ハンブルク (2)
- 第 10 回 「歓喜と労働」世界同盟の結成へ (1)
- 第 11 回 「歓喜と労働」世界同盟の結成へ (2)
- 第 12 回 終わりに

2 時限 エネルギーから見る近現代日本の
歴史：石炭を中心に (島西 智輝)

2011 年に「山本作兵衛の炭坑記録画」が世界記憶遺産に指定され、また 2015 年に「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」が世界遺産に指定されたことからわかるように、石炭産業は日本の歴史において重要な役割を果たしました。一方で、炭鉱閉山による大量失業や地域の荒廃、そして多数の死傷者を出した悲惨な事故など、石炭産業をめぐる「負の記憶」も人々の強い関心を集めています。しかし、日本の石炭産業の歴史は十分に知られていません。

本講義では、石炭の生産・流通・消費に注目しながら、日本の石炭産業の歴史を解説していきます。石炭産業の歴史を手がかりに、近現代日本の歩みをたどっていきましょう。

(※各回の内容は変更することがあります)

- 第 1 回 対外貿易を支えた石炭
- 第 2 回 石炭が動かした帝国日本経済
- 第 3 回 炭鉱経営の二重構造
- 第 4 回 労働集約的技術革新
- 第 5 回 競争制限下の石炭取引
- 第 6 回 石炭産業から見える戦争
- 第 7 回 戦後復興を支えた石炭
- 第 8 回 石炭から石油へ
- 第 9 回 経営の自主性の喪失
- 第 10 回 労働節約的技術革新
- 第 11 回 「安全第一」の限界と広がり
- 第 12 回 戦後日本政治における石炭産業

人間コース

3 時限 戦後日本の文化運動・農村・ジェンダー：周縁からの思想史的考察
(コマストリ キアラ)

いわゆる「戦後日本」と聞いて多くの人が思い浮かべるのは、高度経済成長や学生運動・安保闘争などの政治的対立、あるいは団塊世代の台頭、大量消費社会、公害問題などであり、最終的には昭和天皇の死とバブル経済の崩壊によって区切られる一つの時代像であろう。しかし、こうした歴史像の多くは都市を中心とする男性知識人によって形づくられてきた。本講座ではその視点を相対化し、周縁化されてきた農村、そしてその内部でさらに周縁化されてきた女性たちの言説に注目しながら、「戦後日本」を特徴づける諸問題を考える。そこから浮かび上がるのは、日常的な文化実践のなかで形づくられていく、もう一つの「戦後日本」の思想的可能性である。まず、農村という場と女性という主体を手がかりに、戦後日本の文化運動を農村社会との関係から捉え直す視点を提示する。ついで 1950 年代のサークル運動と農村社会の関係を取り上げ、農村の文化活動が人びとの表現や思考の場をどのように生み出していったのかを考察する。そのうえで、こうした文化実践を思想として結晶させた作家・活動家として山代巴に注目し、その思想と実践を検討する。さらに、大牟羅良と『岩手の保健』、地域女性史の実践、女性と民話などの事例を通じて、地域社会における知の形成のあり方を考察する。また、鶴見和子の内発的発展論、石牟礼道子、小原麗子らの思想を取り上げ、エコロジーやアニミズム、フェミニズムといった視点を含む周縁からの思想が日本社会をどのように問い直してきたのかを検討する。

4 時限 ジェンダーと政治
戦後史から考える男と女 (広岡 守穂)

家族、組織から国家まで、社会のさまざまな局面で、ジェンダーがどう変容したかを考えます。

政治経済や法律ばかりでなく、大衆文化、恋愛と結婚、家族など、できるだけ具体的に考えてみたいと思います。戦後民主主義を象徴するといわれた『青い山脈』のような小説も取り上げます。

戦後は、わたしたちが生きてきた時代ですから、それぞれご自分のかけがえのない経験があるはずで、そのご経験を振り返りながら問題に迫っていただければと考えています。

- 第 1 回 社会変容をとらえる視点について講師の経験から (1)
- 第 2 回 ゲストスピーカーのお話 ある女性の半生
- 第 3 回 ジェンダーと政治思想 高群逸枝、平塚らいてう、山川菊栄
- 第 4 回 社会変容をとらえる視点について講師の経験から (2)
- 第 5 回 「真珠夫人」「女の一生」「愛染かつら」「青い山脈」
- 第 6 回 1970 年代 80 年代の流行歌をふりかえる
- 第 7 回 社会変容をとらえる視点について講師の経験から (3)
- 第 8 回 恋愛とセックスと結婚 概観
- 第 9 回 恋愛とセックスと結婚 「東京ラブストーリー」他
- 第 10 回 働くことと家事育児 概観
- 第 11 回 働くことと家事育児 ある女性の経験
- 第 12 回 社会変容をとらえる視点について講師の経験から (4)

土曜講座

2 時限

国道 246 号線スタディーズ ～ミリタリー・エリアから首都圏を 考える (塚田 修一)

青山、渋谷、三軒茶屋といった人気スポットを經由し、厚木、御殿場、そして沼津へと至る国道 246 号線。首都圏において重要なこの国道を通して、都心と郊外の歴史と現在を考えます。本講座では、起点の三宅坂から渋谷までの「青山通り」の区間（第 1 回・第 2 回）、そして世田谷を通る「玉川通り」の区間（第 3 回）、さらに横浜・大和の「厚木街道」の区間（第 4 回・第 5 回）、静岡に入って御殿場（第 6 回）まで 246 号線を移動しつつ、各地域の近現代を、「ミリタリー」をキーワードに読み解きます。ミニ・ワークショップの実施も予定しており、受講生と一緒に「ニーヨンロク」について考えたいと思います。

- 第 1 回 青山通りの近現代・前編
- 第 2 回 青山通りの近現代・後編
- 第 3 回 玉川通り・世田谷と陸軍
- 第 4 回 厚木街道・長津田編
- 第 5 回 厚木街道・大和編
- 第 6 回 御殿場編：富士の裾野と軍隊

4 時限

福祉と正義と経済（学）と (後藤 玲子)

本講義は「機会の平等」を切り口として、福祉と正義と経済（学）の視点を結び合わせることを試みます。「機会の平等」というと何を思い浮かべますか？教育や就労の機会、公共サービスや医療サービスの利用、よりよい情報にアクセスできる機会などでしょうか。そこでは、だれのどんな姿が、また社会のどんなしくみが思い浮かびますか？福祉の視点は個人の多様な生を、正義の視点は社会の諸制度を、経済（学）の視点は、価値（商品的・非商品的）の創造・分配・享受のプロセスを評価します。本講義は、「公共的相互性」に基づく福祉国家を実現する経済（学）を探究します。

- 第 1 回 機会の平等と多様性 — 公共サービスはいま？
- 第 2 回 メリットクラシーと尊厳の毀損
- 第 3 回 傷ついた小鳥たち — 社会的協同の契機
- 第 4 回 公共的相互性と偶然の哲学
- 第 5 回 ケイパビリティアプローチの挑戦
- 第 6 回 経済はどこまで倫理なしで行けるだろうか？

世田谷市民大学運営委員会／評議会

2026年4月1日現在

学 長 吉見 俊哉（國學院大學教授）
運営委員長

運営委員 浅子 和美（一橋大学名誉教授）

小川 有美（立教大学教授）

苅部 直（東京大学教授）

高嶋 修一（一橋大学教授）

高原 明生（東京女子大学特別客員教授）

滝澤 美帆（学習院大学教授）

玉野 和志（放送大学教授）

辻 泉（中央大学教授）

広岡 守穂（中央大学名誉教授）

山梨 あや（慶應義塾大学教授）

評議員 馬場 康雄（東京大学名誉教授）

間宮 陽介（京都大学名誉教授）

米山 光儀（慶應義塾大学名誉教授）

和田 あき子（ロシア文学研究者）

今後の予定講座（2026年度）

公開講座

広く一般区民の方を対象として年2～3回行われる特別講座です。2027年1月～2月にかけて実施予定です。日程、講師、講座名などの詳細は、「区のおしらせ せたがや」や「世田谷区ホームページ」等でその都度お知らせします。（事前申込み制・無料）

受講生企画会議について

「土曜講座」の一部、「世田谷市民サマーフォーラム」及び「公開講座」については、『受講生企画会議』において受講生自らが企画し、上記の市民大学運営委員会に提案を行っています。

『受講生企画会議』に参加希望の方、または詳細につきましては「2026年度 受講生企画会議員募集のご案内」（市民大学事務局受付にて配架中）をご覧ください。

申込みのご案内

募集対象

18歳以上の区内在住・在勤・在学の方

※在勤・在学の証明書をご提示いただく場合がございます。
在学者とは世田谷区内の学校教育法第1条に規定される学校に在籍している方を対象とし、大学の聴講生や各種社会人講座を含むカルチャーセンター等の受講生は対象となりません。

申込み方法

(1) 裏表紙の申込書利用の場合

必要事項を記入の上、世田谷市民大学あてに郵送してください。

※必ず 85 円切手を貼ってお出してください。

(2) 郵便はがきまたはFAX利用の場合

裏表紙の申込書と同様の内容を記入の上、世田谷市民大学あてに郵送またはFAXでお申込みください。

(3) オンライン手続き利用の場合

「東京共同電子申請・届出サービス」より、お申込みください。

二次元コード→
(募集期間外は表示されません)



※同一端末（PC、スマートフォン等）で複数アカウント（複数人）の申込はできません。

お手数ですが、個々の端末での申込をお願いします。
※オンライン手続きで入力いただいたメールアドレスへ、突発的な休講等の連絡をする場合があります。予めご了承ください。

後期募集期間

昼間講座 土曜講座	7月1日(水)～15日(水) ※必着
--------------	-----------------------

募集定員

昼間講座	1講座につき80名
土曜講座	1講座につき80名

※定員を大幅に下回るときは中止になる場合があります。
申込が多数の場合は、抽選により受講者を決定します。
抽選の場合、初めて市民大学に申込みの方を優先します。

受講料

昼間講座	1講座につき 7,000円 ※ゼミ受講中の方は割引制度があります。詳細は下記をご覧ください。
土曜講座	1講座につき 5,000円

※ゼミ受講中の方の割引制度について

- ・ゼミと昼間講座を併せて受講されると、昼間講座の受講料が割引になります。
 - ・昼間講座1講座につき3,500円（2講座まで）2講座を超える場合は3講座目から、1講座につき6,000円になります。
- ※ゼミは通年での実施となるため、後期での募集はございません。

受講者の決定・受講料の支払い

- ◎8月中旬に、申込者全員に受講可否の通知と納入通知書を郵送します。受講可否についての問合せはご遠慮ください。
- ◎納付された受講料は、原則としてお返しできません。

《後期講座の追加募集について》

申込締切日以降、定員に満たない講座については、7月31日（金）まで先着順で追加募集をします。

下記番号にお問い合わせください。

※各講座先着順で、定員に達し次第締切ります。

TEL 03-3412-3071

受付時間 8:30～17:00

土・日曜日・祝日は休み

2026年度 後期申込書

希望の講座に○印をつけてください。

注意事項

- 講義の録音・撮影、資料の複製は禁止です。
- 授業の妨害行為(録音・録画・撮影・配信等を含む)が行われていると市民大学が判断した場合は、その場で教室から退室いただきます。原則としてその後の講義もご受講いただけません。
- 諸般の事情により、講義内容、回数、日程等に変更が生じる場合があります。

【昼間講座】

○印	時限	講座名
政治	(月)1時限	国際政治と国際経済の関連を考える －国際政治の視点から
	(月)2時限	スペイン・ポルトガルの政治 －「特殊な国」の200年
社会	(月)3時限	大都市の移動と不平等を考える
	(月)4時限	ローカル／コミュニティとメディアの文化論
経済	(金)1時限	全体主義ソリズムの時代 －NSレジームとKdF－
	(金)2時限	エネルギーから見る近現代日本の歴史： 石炭を中心に
人間	(金)3時限	戦後日本の文化運動・農村・ジェンダー： 周縁からの思想史的考察
	(金)4時限	ジェンダーと政治 戦後史から考える男と女

【土曜講座】

○印	日程	時限	講座名
	10/3～11/7 (土曜日・全6回)	2時限	国道246号線スタディーズ～ミリタリー・エリアから首都圏を考える
	10/3～11/7 (土曜日・全6回)	4時限	福祉と正義と経済(学)と

郵便はがき

85円

※切手を貼ってください

1 5 4 0 0 0 1

世田谷区池尻 2-3-11
せたがや がやがや館 4階
世田谷市民大学 行

後期 【昼間講座・土曜講座用】

ふりがな		生 年 月
氏 名		大正 昭和 平成 年 月
住 所	〒	
電話番号		※日中に連絡のとれる 電話番号をご記入ください（携帯電話も可）
区内在勤・在学の方 勤務先、学校名を記入してください。		
市民大学受講経験の有無 ④の方は受講者番号を記入してください (受講者番号が不明の場合、記入は不要です。)	有 ・ 無	
		受講者番号

- 必要事項を記入の上、
ご郵送ください。

※85円切手を必ず貼ってお出してください。

- 申込期間
7月1日(水)～7月15日(水)
(7月15日必着)

- 提供された個人情報は、
市民大学の運営にのみ利用します。

問合せ先

世田谷市民大学事務局
TEL 03-3412-3071

※8:30～17:00(土・日曜日・祝日は休み)

お知らせ

2027年度前期(4～7月)に開講する
講座は、2027年2月上旬から募集を行
う予定です。

